

資料配布場所

1. 国土交通記者会
 2. 国土交通省建設専門紙記者会
 3. 国土交通省交通運輸記者会
 4. 筑波研究学園都市記者会
- 平成27年11月16日同時配布

平成27年11月16日
国土交通省
国土技術政策総合研究所

河道閉塞（天然ダム）決壊の模型実験を実施します ～高度な土砂災害対策に従事する地方整備局職員の育成支援プログラム実施の公開～

近年、深層崩壊により河川がせき止められ、河道閉塞（天然ダム）が形成される土砂災害が多発しています。河道閉塞（天然ダム）が形成され、決壊した場合、下流部への甚大な被害が予測されます。河道閉塞（天然ダム）決壊時のメカニズムや下流への流出状況を熟知した上で、最先端の高度な技術を駆使した対策が必要となります。

そこで、国総研では、地方整備局等の職員を対象に、大規模な土砂災害対策に関する高度な技術を修得するための育成支援プログラムを実施しています。今回、特に河道閉塞（天然ダム）対策に関する技術修得の一環として実施する河道閉塞（天然ダム）決壊の模型実験を報道関係者の方々に公開します。

1. 実験実施の背景・概要

平成16年新潟県中越地震、平成21年岩手・宮城内陸地震により北陸地方や東北地方において、また平成23年9月台風第12号により奈良県や和歌山県で大規模な崩壊により、河道閉塞（天然ダム）を形成する等甚大な被害を引き起こしました。このような特殊な土砂災害に対する対策に精通した技術者は地方整備局等には少なく、技術者の育成・確保が急務になっています。

国総研では、平成25年度より、国立研究開発法人 土木研究所の協力も得て、最先端の技術を現場に移転するため、地方整備局等の職員を対象とした育成支援プログラムを実施しています。今年度の活動概要は以下のとおりです。

- 1). **活動の期間** 平成27年4月(2日間)、6月(5日間)、8月(2日間)及び11月16日(月)～11月20日(金)
- 2). **参加職員** 全国8地方整備局、北海道開発局の係長クラス 各1名
- 3). **主な内容** 数値計算プログラムを用いた河道閉塞(天然ダム)決壊時の被害範囲の算出技術、人工衛星画像を用いた深層崩壊・天然ダムの発生状況の把握技術、実際の大規模な土砂災害現場における実習など

2. 公開する実験の概要

内容： 模型実験による河道閉塞(天然ダム)決壊対策の検討

日時： 平成27年11月18日(水) 9:00～9:20 (荒天の場合は中止)

場所： 株式会社建設技術研究所*内実験施設 (つくば市鬼ヶ窪 1047-27 Tel029-847-0234)

*業務委託により、実験に協力していただいております。

取材を希望される報道機関の方は、前日までに下記までご連絡下さい。

問い合わせ先

国土技術政策総合研究所 土砂災害研究部 砂防研究室

室長 桜井亘(内線 3921)、主任研究官 内田太郎(内線 3924)

代表 029-864-2211、直通 029-864-4372、FAX 029-864-0903

【公開する実験について】

1. 内容

模型実験による河道閉塞(天然ダム)決壊対策の検討(写真1)

模型実験では、まず水路(写真2)内に土砂を用いて、河道閉塞(天然ダム)の模型を作成します。

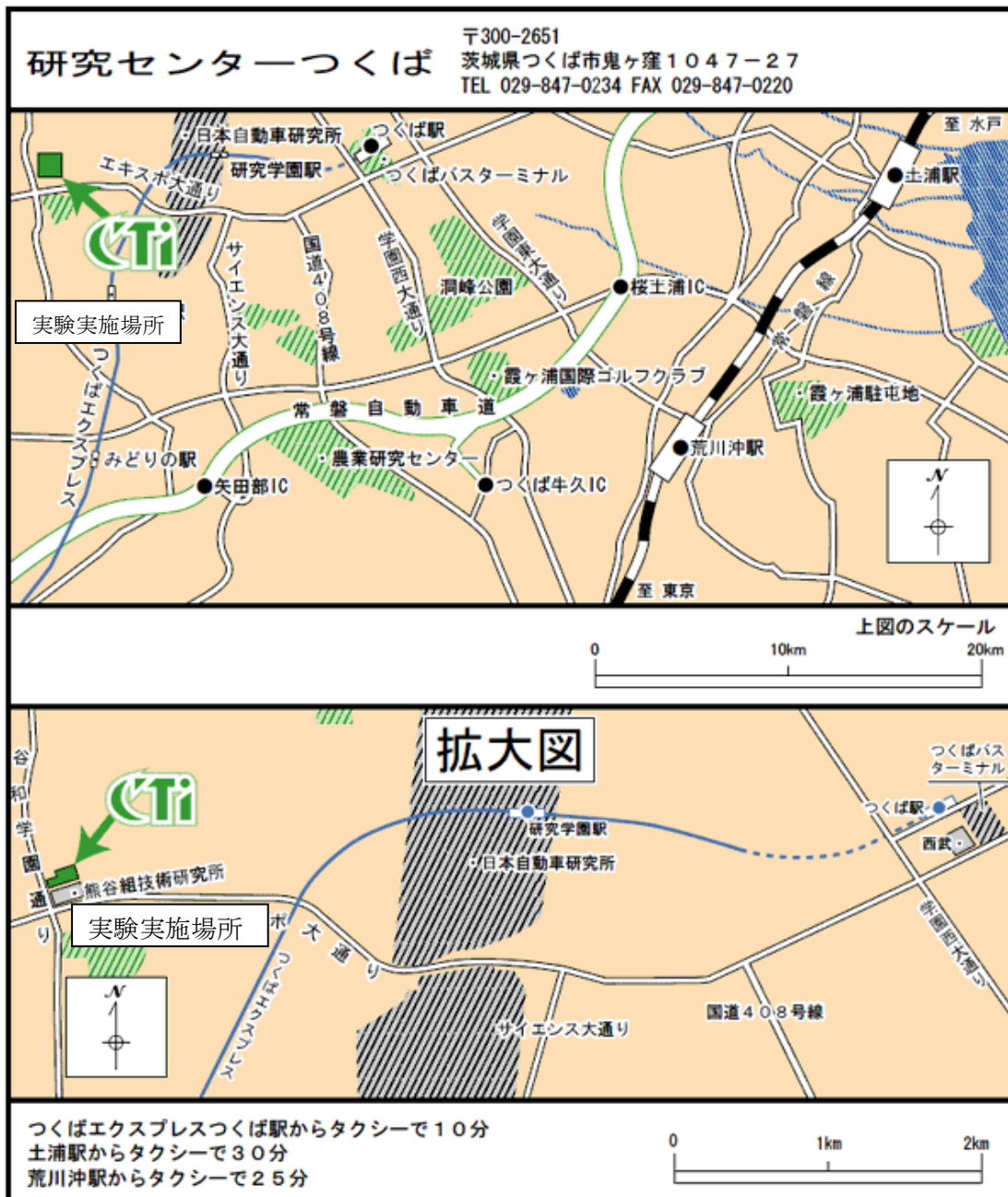
その上で、水路の上流端から、水を流し込み、河道閉塞(天然ダム)を決壊させ、対策方法について検討します。

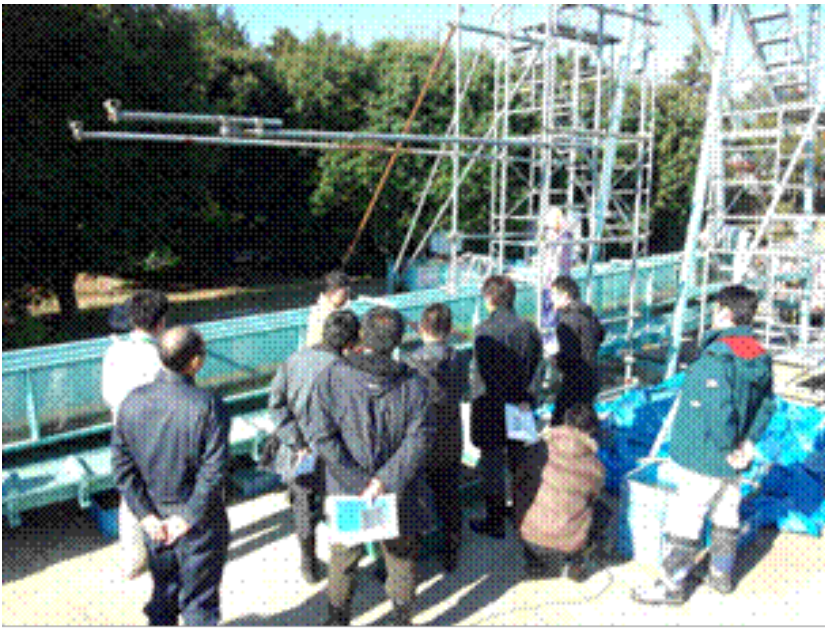
なお、公開時の実験は、対策施設のないケースを予定しております。

2. 実験実施日時・場所

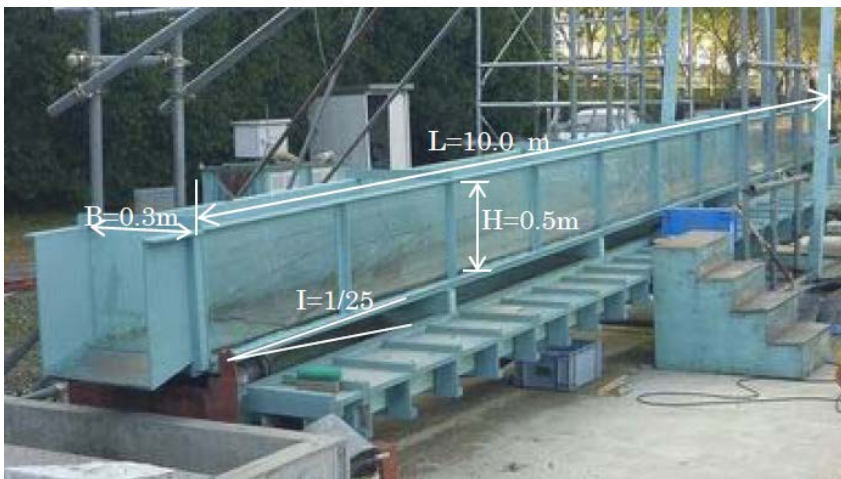
日時：平成27年11月18日(水) 9:00~9:20

場所：株式会社建設技術研究所*内実験施設 (つくば市鬼ヶ窪 1047-27 Tel029-847-0234)





模型実験による河道閉塞(天然ダム)決壊に対する対策の検討の様子



実験に用いる水路